

国内におけるデジタルアーカイブ構築状況について

平成23年2月2日

「知のデジタルアーカイブに関する研究会」（第1回）

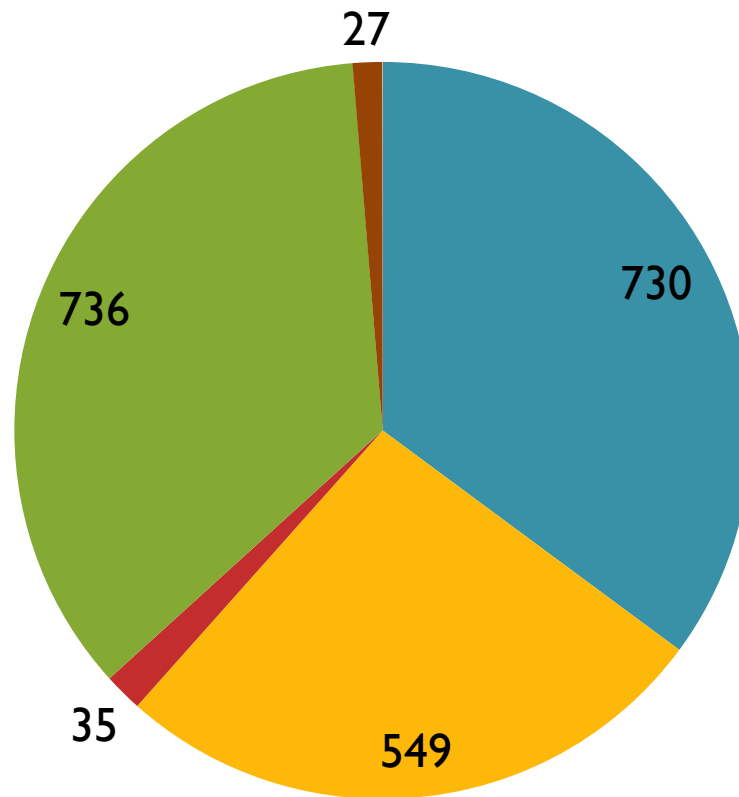
国立国会図書館関西館 電子図書館課長 大場利康

日本のデジタルアーカイブの現状調査

- 「文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究」
 - 平成21年度実施
 - 図書館、文書館、博物館・美術館4,302を対象にアンケート調査。回答数2,076。回収率48.3%。

回答機関内訳

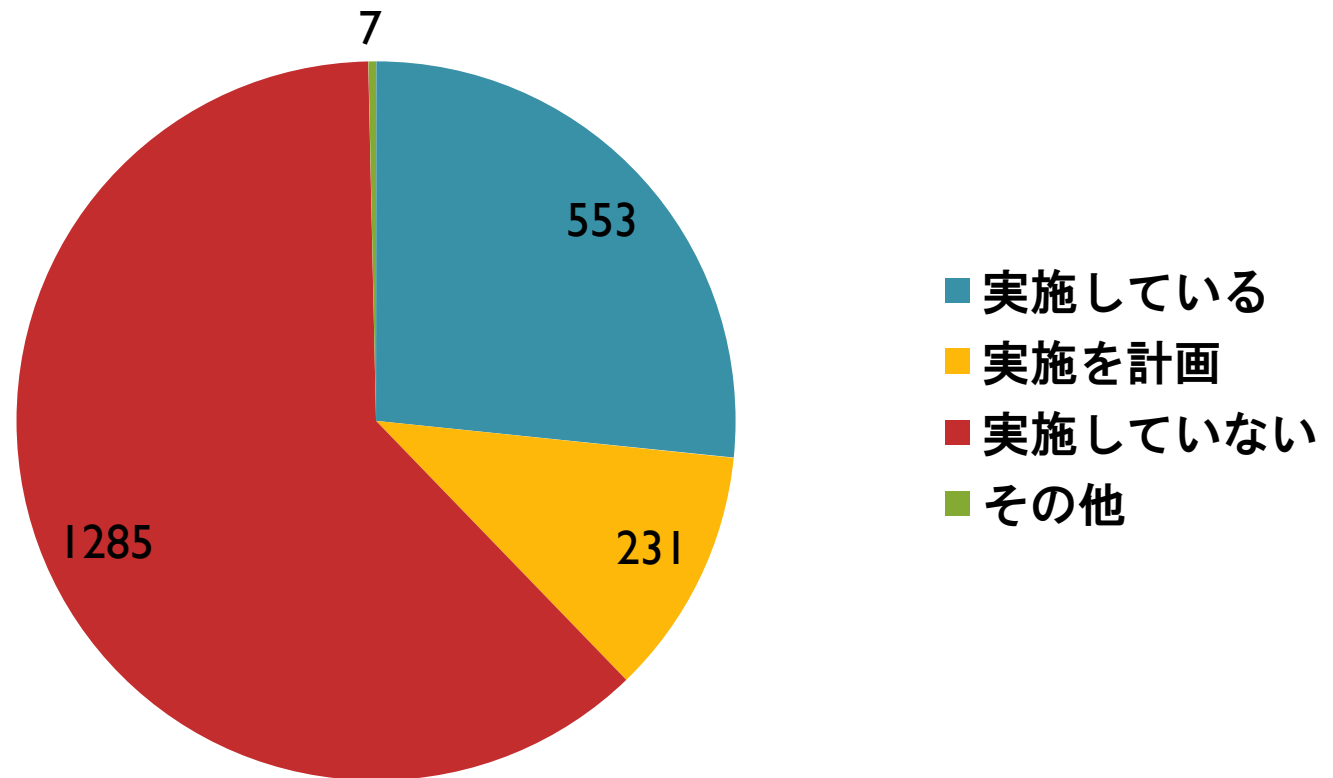
回収数



- 公共図書館
- 大学図書館・専門図書館
- 公文書館
- 美術館・博物館
- その他

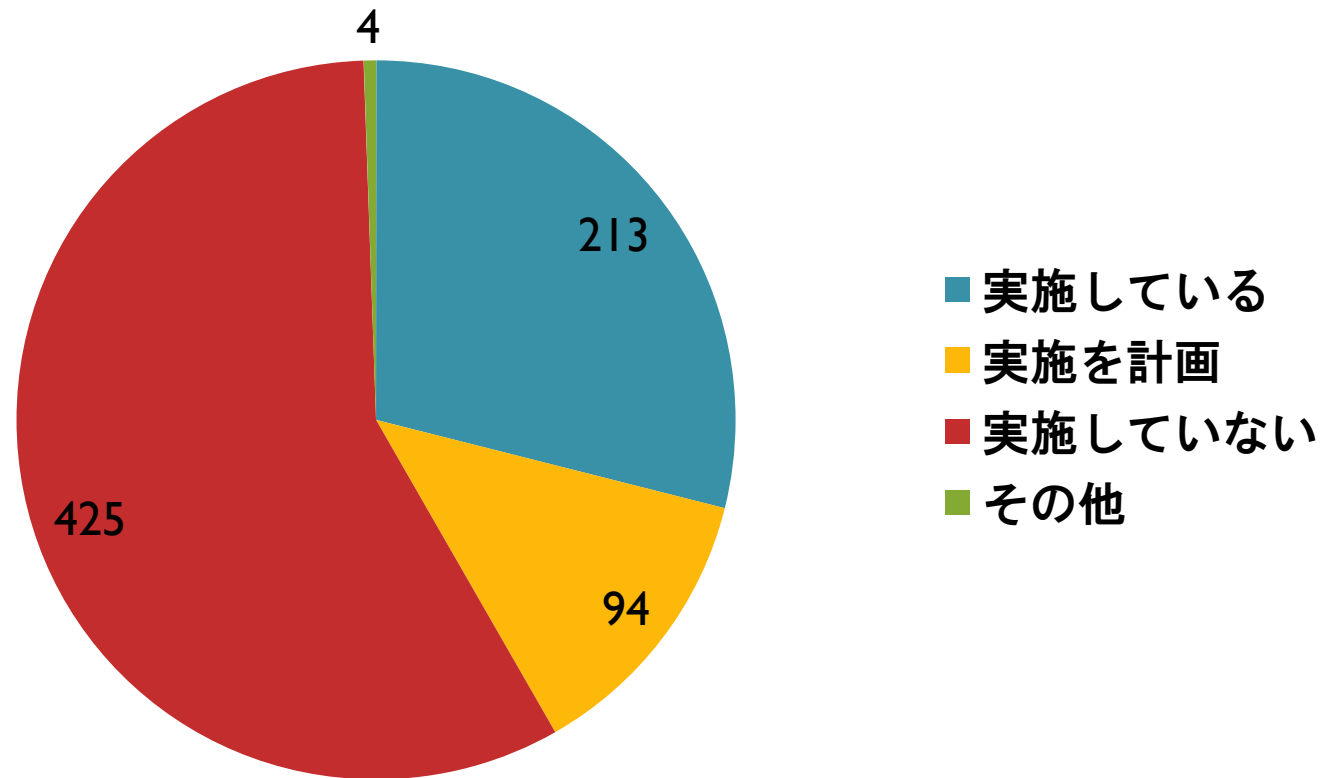
デジタルアーカイブ実施状況

全体の26.6%(553機関)が実施・運営
実施・運営の計画を持つ機関が11.1%



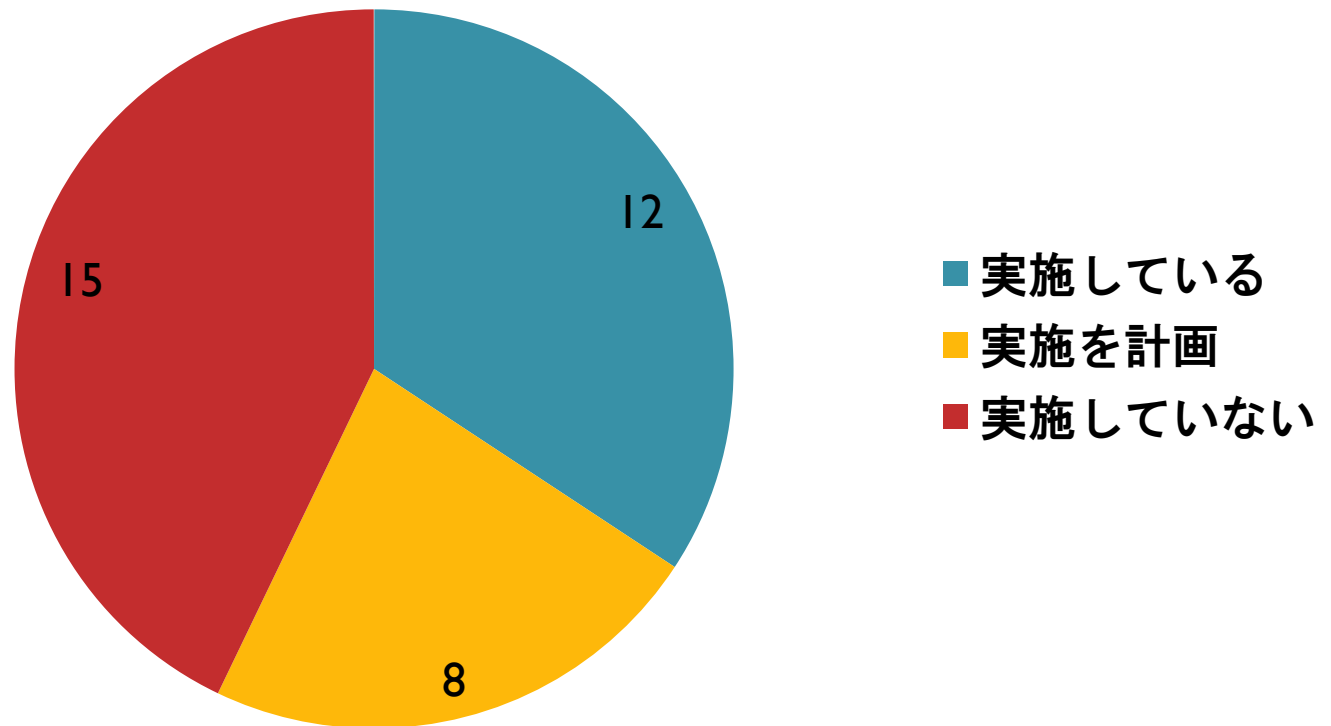
博物館・美術館の実施状況

28.9%(213機関)が実施・運営
実施・運営の計画を持つ機関が12.8%



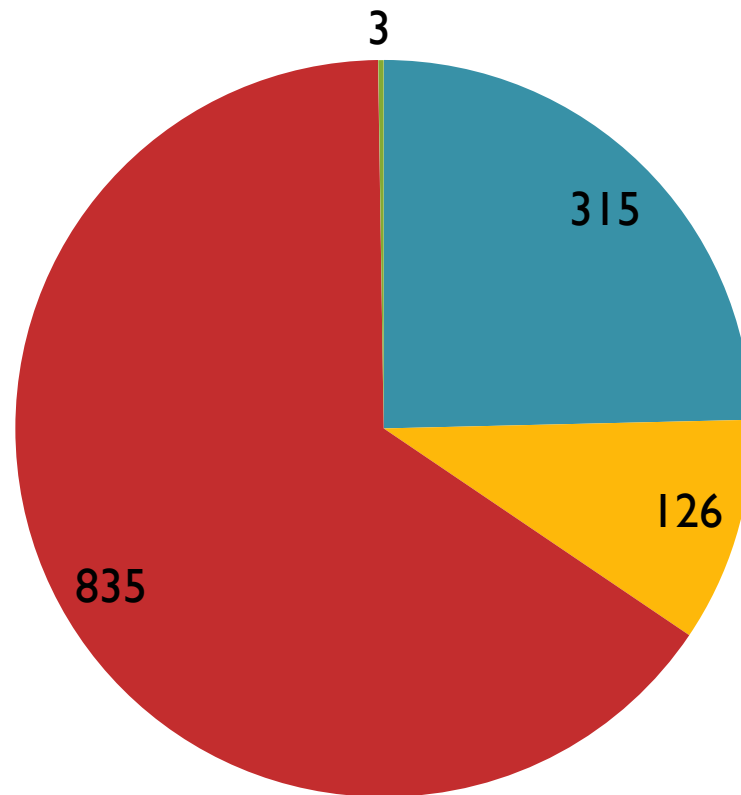
文書館の実施状況

34.3%(12機関)が実施・運営
実施・運営の計画を持つ機関が22.9%



図書館の実施状況(I)

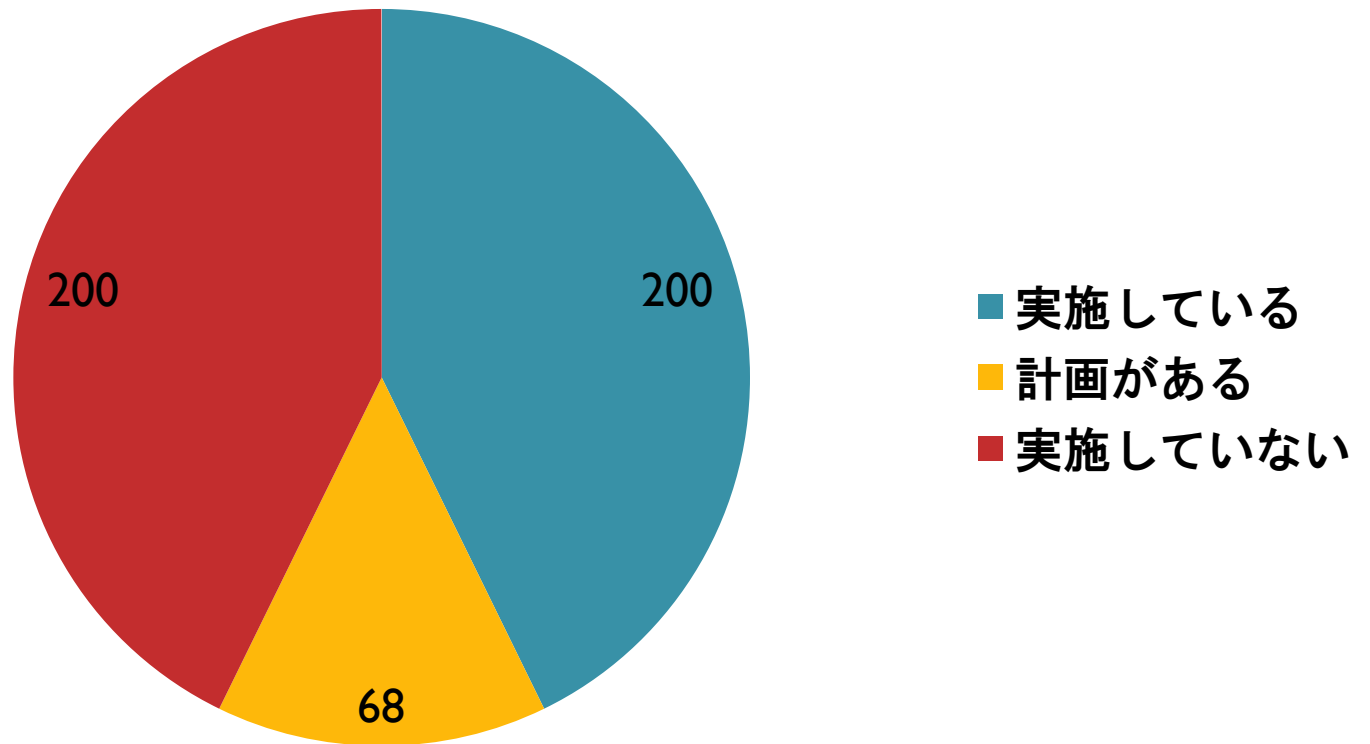
図書館全体



- 実施している
- 計画がある
- 実施していない
- その他

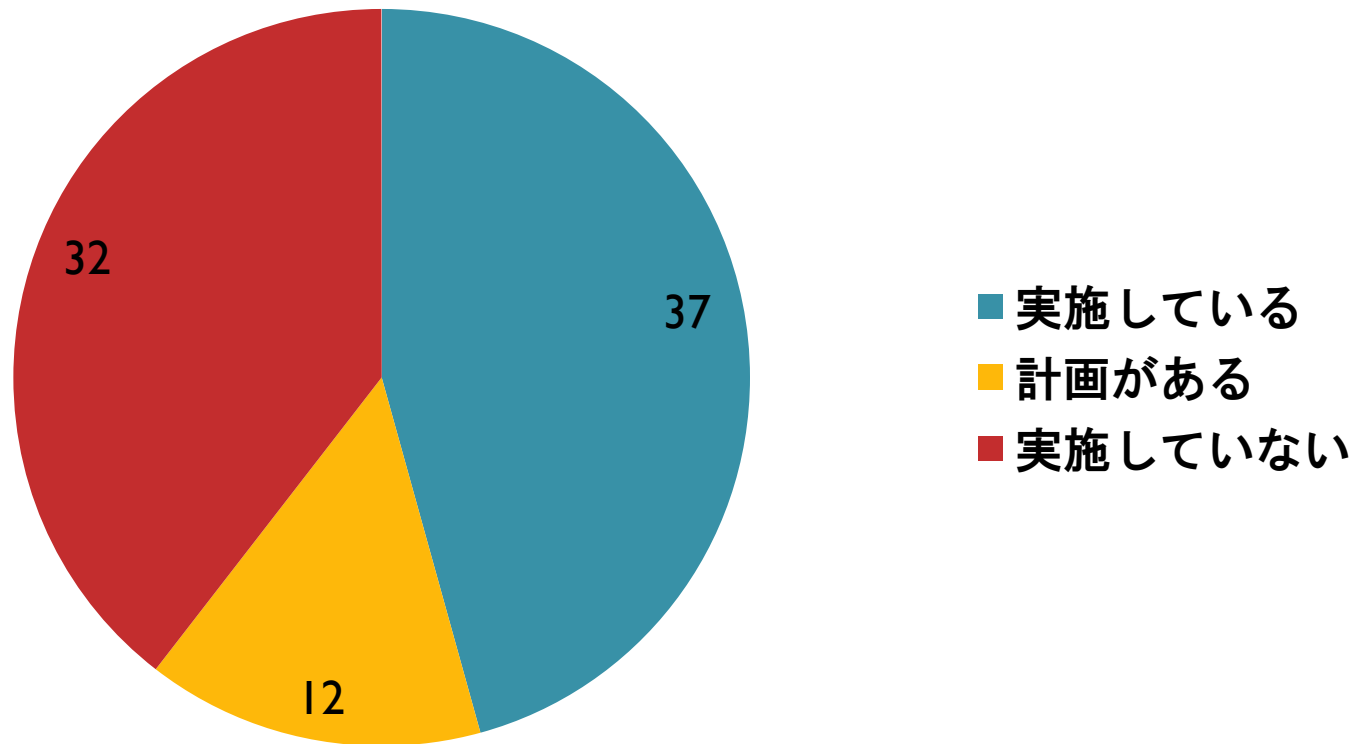
図書館の実施状況(2)

大学図書館



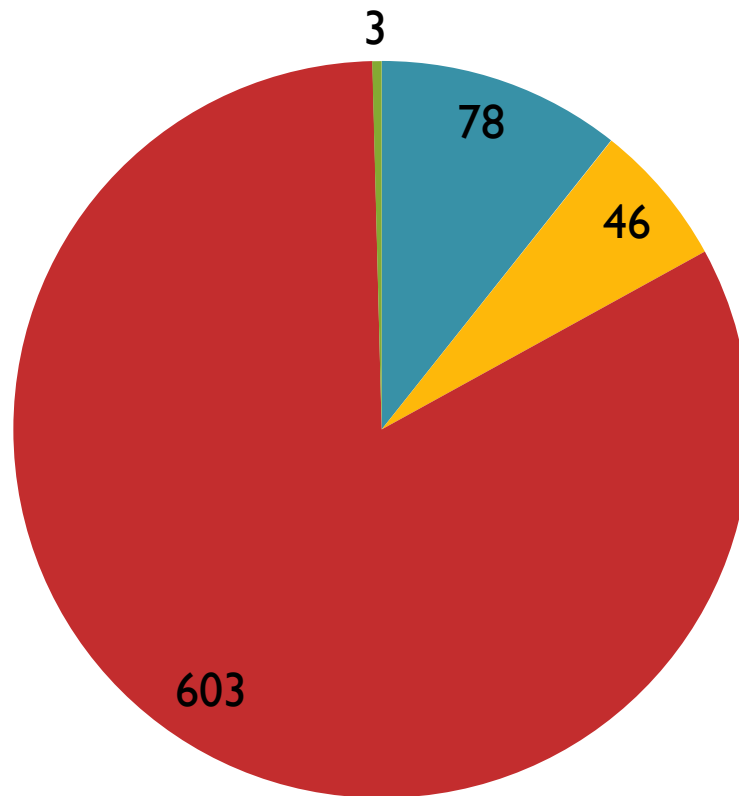
図書館の実施状況(3)

専門図書館



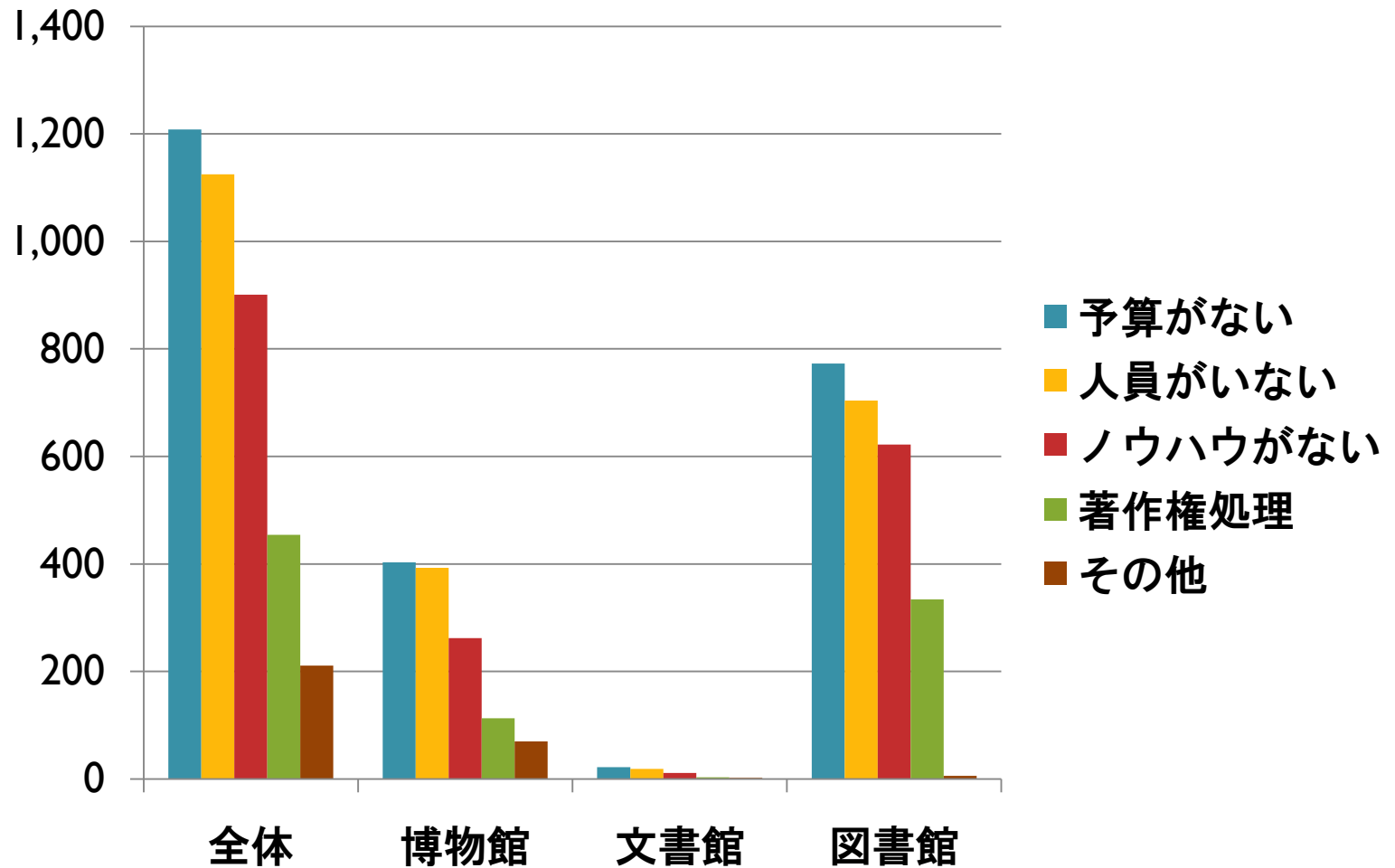
図書館の実施状況(4)

公共図書館



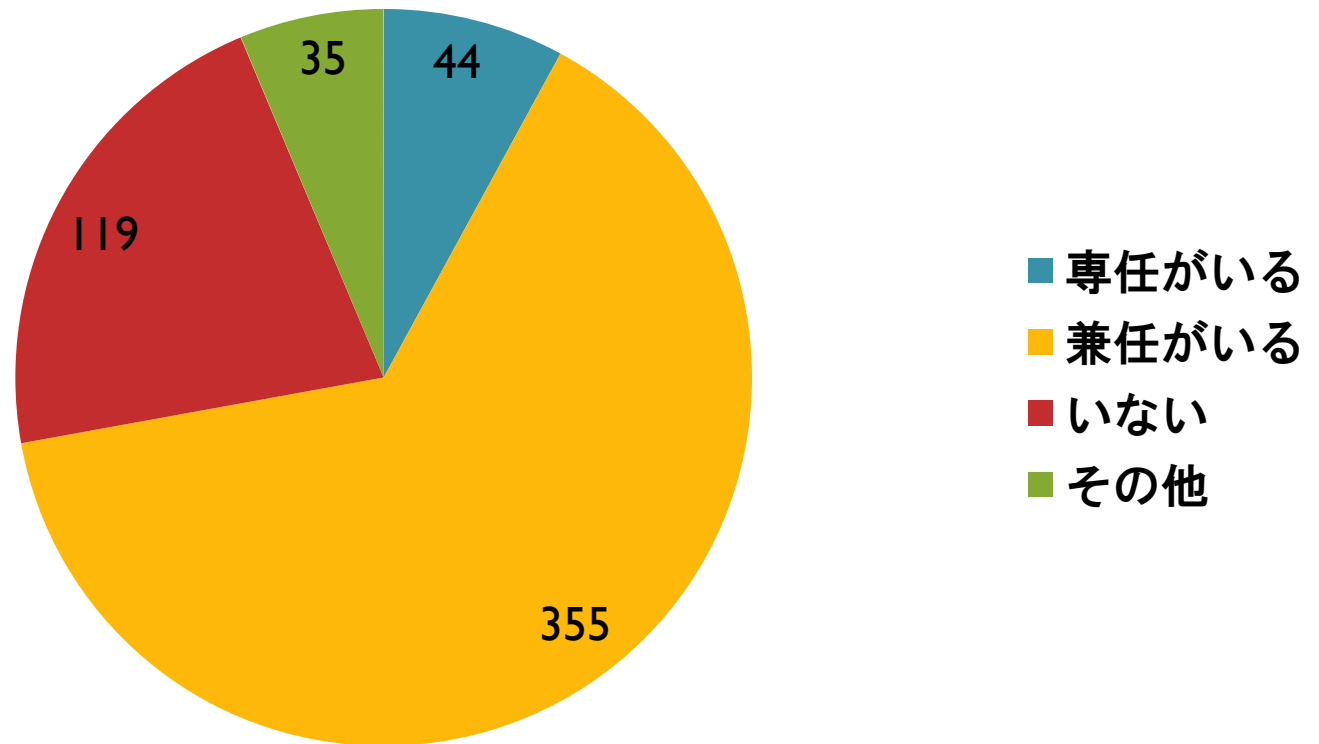
- 実施している
- 計画がある
- 実施していない
- その他

実施できない理由



実施している場合でも...

担当者の有無



第2次調査

- 第1次調査でデジタルアーカイブ等を運営していると回答した機関を対象として、システムの構築・運用等について調査
- 発送数560、有効回答431

デジタルアーカイブ運営の目的

- 運営の目的を1位から3位まで順位付
- 1番に「活動成果の普及・公開」をあげた機関が47.8%、次は「資料の継続的保存・管理」(23.7%)
- 公共図書館と博物館で「資料の継続的保存・管理」、公文書館で「資料の検索性の向上」、大学図書館で「活動成果の普及・公開」が最も高い
- 目的の2番目では「資料の検索性の向上」、3番目では「広報活動」がそれぞれ上位に

デジタルアーカイブの運営予算

- 運営予算が年間予算に占める割合
- 全体では「わからない」が半数近く
- 回答のあった機関では「0%」が23.4%と最も多く、「1%未満」(13.9%)が続く
- 「5%以上」は4.4%、うち10%以上を回答したものは9機関、最大値は22%

詳細は...

- 「カレントアウェアネス・ポータル」
で公開中

http://current.ndl.go.jp/FY2009_research